

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290700164		
法人名	社会福祉法人 浜田福祉会		
事業所名	グループホーム美川の郷 かがやき		
所在地	島根県浜田市内村町843番地		
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町村受理日	平成31年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [?/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32](http://index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成31年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である「私たちは高齢者の人権が尊重される地域社会で、高齢者がゆとりをもち生き甲斐と幸福感を感じながら生活できる場づくりを目指します」を常に心掛け、利用者様ご家族との信頼関係が深まる様、連絡を出来るだけ密に取れるようにしている。地域との関わりが持てるよう、地域行事への参加を積極的に行い、地域交流、連携に努めている。また、ホーム内だけでの生活にならないように、買い物やドライブ、各イベントの参加などの外出を定期的に行っている。地域の保育園児の訪問や小学校、中学校への行事への参加なども定期的に行っている。今後も地域との連携を高め、利用者の方に様々な楽しみ等が提供できるようにしていきたいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が地域の行事やドライブ、催し物など馴染みの場に出かけたり、裁縫や調理、オルガンを弾くなど得意なことを継続して行い役割を持って生活出来るよう支援している。魚釣りが好きだった利用者には、一緒に釣竿やジャケットを買いに行き、防波堤を歩くために足腰を鍛える運動を行い、釣った魚を調理してみんなで食べるなど、利用者が楽しみながら生活出来るよう工夫して支援している。職員の力量向上を目指し、話し合い情報を共有しながら理念に沿った支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議時に職員に対して、事業所理念に基づいた意識の確認をしており、実践につなげている。	法人理念をベースにし、会議で確認し合い振り返りを行っている。日々の支援で困った時、利用者の立場で考え、理念に沿った支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域にある理髪店に行ったり、散歩に出かけて地域住民とあいさつを交わしたりして交流している。また、地域で開催される行事にも参加したり、ホームで夏祭りを開催したりしての交流も行っている。	散歩時に挨拶を交わし、地域や事業所の行事を通して交流している。園児や小・中学生、ボランティアの来訪があり、案内を受けて運動会などに出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の相談を受ける体制を整え、認知症に対する理解を深めていただくよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を行事などの参考にしたり、サービスの向上に繋げるようにしている。また、介護相談員の定期訪問の活用で利用者の意見をサービスの改善に取り入れ、運営推進会議で報告している。	利用者状況や活動を詳細に報告し、意見や助言を受けている。意見から毎日行っている体操を利用者に合わせた個別ケアに繋げるなどサービスに反映させている。	会議の内容を家族に報告されることを望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいて、利用者の様子や状態などを伝えている。また、地域包括支援センターと緊密な連携を取り、相互に情報交換をするなどして協力関係を維持している。	運営推進会議で現状を報告し情報を貰ったり、困難事例の相談をするなど、連絡を密に取りながら協力して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束のない介護の実践についての強い意志を持ち、見守りを強化し、利用者の事故防止、安全確保に努めている。	ユニット会議で話し合ったり法人の研修会に参加し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。グレーゾーンの項目をアンケートし、気になる事を話し合いながら意識して支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待についての勉強会を行い、全職員がしっかりと理解した上で虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を実際利用されている利用者もおられるため、外部研修に参加することで権利擁護、後見制度について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族の方へ利用契約書、重要事項説明書等を細心の注意を払いながら分かりやすく説明し、家族からのご理解と納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた時や電話で意見や要望を聞くように努めている。また、介護相談員に定期的に来てもらい利用者の意見を聞いていただいている。	家族には面会時や電話、便りで日頃の様子を伝え意見を聞くことに努めている。介護相談員の来訪があり利用者が意見を言いやすいようにしている。職員の提案で家族会を予定している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時職員から意見を聞くようにしており、それらを迅速に運営に反映させるようにしている。	会議やユニットリーダーを通して意見を聞き運営に反映させている。職員を育てるマニュアルづくりの提案などあり、統一した支援を目指し検討しながら一緒に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己申告制度を法人全体の取組みとして導入し、代表者が確認でき、就業環境の整備に反映できるシステムを構築している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の目標や研修希望を聞き、外部・内部研修計画を策定。職員の質の向上及び事業所の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加により、他事業所との交流をする機会を得ている。また、各種団体の行事への参加を通じ、情報交換に努め、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の言葉に耳を傾け思いを受け止めるように努めている。また、ゆっくり話を聞く時間を持つことを心がけ、利用者の気持ちに共感し、接するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の言葉に耳を傾け思いを受け止めるように努めている。しっかり意見を聞き、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しい環境の中で生活していく上で、本人や家族の不安、必要としている事を相談しながら、生活に慣れていただけるような対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに一人の人間として、尊重し支え合いながら生活することを大事にしている。調理や園芸など様々な場面で、利用者職員が共に過ごし支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に面会に来ていただける機会を作り、利用者に関わりを持つ時間を作るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や家族との外出、外泊は自由に行っている。また、職員との買い物やドライブに出かけたりしている。また、本人の希望の場所に行けるようにして関係継続の支援を行っている。	馴染みの美容院に行ったり、家族の協力でお食や外泊をしたり、ドライブで生まれ育った所に行くなど関係継続の支援に努めている。準備を整え利用者の好きだった釣りに行く支援を行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや日頃の会話を通じて、利用者が孤立することのないように努め、また、利用者同士の楽しみ等が共有できるきっかけを探るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりが必要な方については、相談や支援に努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でコミュニケーションを取りながら、本人の思いや希望の把握に努めている。困難な方には日常の関わりの中で表情等で確認するように努めている。	会話の中で、さりげない言葉や表情から思いの把握に努めている。困難な時は家族に聞いたり、生活歴から思いを探り支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時及びその後も、本人についての情報を収集し、その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック、レクリエーション、入浴や排泄、食事、睡眠、言動から本人の状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、ご家族より意見を伺うようにしている。また、ミーティング等を利用し職員間で意見交換して介護計画を作成している。	本人、家族から意見を聞き、職員で意見を出し合い情報を共有し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に細かな状態を記録しており、全職員が本人の日頃の状況を把握し共有した上で、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況・要望に応じて、家族の協力を得ながら、個別に外出支援を行うなど柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りや盆踊り大会、地域の催し物にも積極的に参加し楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の利用者の状態を把握し、主治医にその旨を報告している。また、定期受診や検査等の結果報告について、家族との連絡を緊密に行っている。	利用者、家族の希望のかかりつけ医を継続して受診している。主治医や家族と情報を共有し、連携して適切な医療が受けられるよう支援している。歯科医の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に異変を感じた場合、24時間いつでも主治医、看護師、保健師に連絡が取れるように連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者やご家族と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃からのコミュニケーションで、利用者がどのような考えを持っているかを確認し、その利用者のご家族とも相談し、チームで情報を共有している。	入居時に事業所で出来ることを説明し方針の共有に努めている。利用者の状況に合わせて関係者と話し合い、連携して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法などについての研修会を全職員が行い、緊急時に冷静・迅速に対応できるよう自己研鑽し、実践に活かせるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練で緊急時に対応できるようにしている。防災マニュアルを作成し、避難訓練の中で避難経路や避難場所を確認している。地域の方々に避難訓練への参加をお願いし、地域との相互協力体制の構築に向けた取り組みをお願いする。	避難訓練を実施し消防署からの助言を改善に繋げている。水災害の経験があり、避難場所の確認など普段から意識して取り組んでいる。	夜間時、避難した利用者の見守りなど、地域の協力が得られることを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの価値観を大切にし、その方を尊重する言葉づかいを心がけている。	利用者の人格を尊重した声かけや対応を心がけている。互いに「ありがとう」と言い合い、利用者がここに居て必要とされていると感じられる支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉を聞き逃さないように心がけ、本人の思いの実践、自己決定の実現ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながら関わっている。また、本人が自己決定しやすいように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者それぞれの希望等を伺い、身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事などにはお好きな物を献立に取り入れている。盛り付けや食器洗い等の片づけをできる範囲内で参加していただけるように努めている。	盛り付けや調理など出来ることを一緒に行っている。畑の野菜を収穫し調理したり、行事や誕生日には好みの献立を取り入れ楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量を把握し、一人ひとりの状態に応じた調理方法、形態や盛り付けを工夫し、楽しく健康的に食事ができるように気を配っている。また、定期的に水分摂取を行うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしていただけるように支援している。また、義歯の方には夜間洗浄剤などを利用して清潔に保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを職員がしっかりと把握した上で、声かけや誘導を行いトイレでの排泄をしていただけるようにしている。	排泄パターンを把握し、一人ひとりの様子を見ながら声かけし、見守りながらトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医の指導の下、便秘状態にならないための食材の選択、服薬管理等の支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望があった場合、安全面を考慮し安心して入浴していただけるように努めている。入浴拒否がある場合は時間をずらしたり、配慮した言葉かけで安心して入浴していただくようにしている。	利用者の希望の時間で支援し状況を見て柔軟に対応している。関わりを大事にしゆっくりと会話をし楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休息できるような環境整備を行い、夜間良眠のための支援を行っている。夜間寝付けない利用者については、温かい飲み物を提供したり、お話を傾聴するなどして安眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の情報は個人ファイルに綴じていつでも確認できるようになっている。変更になった場合は、職員間で周知できるよう連絡帳に記載し確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や状態など職員が把握しており、一人ひとりに応じた役割や趣味、気分転換などをしていただくことで、活気ある生活を送ることができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブなどにより外に出かける機会を多く作っている。家族にも協力をお願いして外出できるよう支援している。	個別支援やユニット全員で出かけるなど外出支援に力を入れ、散歩やドライブ、買い物、喫茶店に行くなど、希望に合わせて支援している。家族やボランティアの協力がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者は現金を所持されていないが、買い物に同行していただく等して、買い物の楽しみ等は体感していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者と家族の希望をお聞きし、いつでも電話できるような環境を整えている。手紙をいただいた時は本人に読んでいただき、後日電話でお話をされる機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が日中多くの時間を過ごすホールは、日当たりが良く、温度調節もこまめに行っている。また、ホールや廊下の壁には、利用者の手工芸作品や行事の写真などを飾り、明るく居心地の良い空間作りに努めている。	季節を感じる手作りの作品や置物が飾られている。ソファーに座り寛ぐ人や、ホールのガラス越しに見える園児に手を振るなど、思い思いに過ごせる環境づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は共用空間で日中過ごされる時間が多いので、それぞれの場所で楽しく過ごしていただくための支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、使い慣れた家具や家族の写真などを飾っていただくなどして、居心地の良い空間作りに努めている。	家族の写真や作品を飾ったり、家から家具、テレビ、ベッドなどを持ち込み本人が居心地良く過ごせる居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレには手すりを配置し安全に配慮している。居室には名札を下げ、トイレにも表示をするなどして、できるだけ混乱なく生活できるよう工夫している。		